

2026年2月19日
東日本旅客鉄道株式会社
高崎支社

ZEB Ready 認証を取得し足利地産材を活用した両毛線 山前駅 新駅舎の供用開始について

- JR東日本グループでは、長期環境目標「ゼロカーボンチャレンジ2050」にて、CO2排出量実質ゼロに挑戦する計画を策定しています。
- 新駅舎は、省エネルギー化の取組みの一環として2025年1月14日付でZEB Ready 認証(※1)を取得し、高効率な省エネルギー設備を備えた駅舎として生まれ変わります。
- この度『ジモトの木 ASHIKAGA/TOCHIGI』(※2) プロジェクトと連携し、駅舎の一部や待合室、ベンチに足利地産の木材を使用することで、地域に愛されるあたたかみのある駅舎として2026年3月7日に供用開始します。
- 旧駅舎を後世に語り継ぐ新たな取組みとして、JR東日本公式YouTubeチャンネル「TRAIInBLAZER(トレインブレイザー)」にデジタルアーカイブを公開します。
- 地域の皆さま、ご利用の皆さまのこれまで以上のご愛顧をよろしくお願いいたします。

1 山前駅の新駅舎の供用開始日

2026年3月7日(土) 始発列車から

2 新駅舎の施設概要

新たな山前駅は、小規模駅舎における環境負荷低減の先進的な取組みとして、木造駅舎としては国内初のZEB Ready 認証を取得しており、脱炭素社会の実現に寄与しています。

また、『ジモトの木 ASHIKAGA/TOCHIGI』プロジェクトとの連携により、駅舎の一部や待合室・ベンチに足利地産の木材を使用した駅舎となります。

【駅舎の概要】

構造・規模：木造平屋建 延べ床面積 60㎡

3 旧駅舎を新しいカタチで残す「デジタルアーカイブ」の公開

地域の皆さまに長きにわたり愛されてきた旧山前駅舎を、デジタルアーカイブという新しいカタチで公開しますので、ぜひご覧ください。

- ・チャンネル名 TRAIInBLAZER(トレインブレイザー)
- ・動画公開日 2026年3月7日(土)以降を予定
- ・動画タイトル 【JR東日本】両毛線・山前駅旧駅舎デジタルアーカイブ化
- ・動画URL <https://www.youtube.com/channel/UCMag2-qxmPmTgerSwT-g7MA>



山前駅パース図



デジタルアーカイブ動画(一部)

(※1) ZEB (Zero Energy Building) 及び ZEB Ready 認証取得について

- ・ ZEB とは、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることをめざした建築物であり、ZEB/Nearly ZEB/ZEB Ready/ZEB Oriented と 4 段階の ZEB を定性的および定量的に定義したものです。
- ・ 「駅舎」での ZEB Ready 認証取得は東海道本線村岡新駅（仮称）に続き国内 2 例目です。
- ・ 木造駅舎としては、国内初の ZEB Ready 認証取得となります。



(※2) 『ジモトの木 ASHIKAGA/TOCHIGI』プロジェクト

栃木県足利市産の木材の利活用を通じ、輸入材に頼らず地元である栃木県足利市産の木材を活用することで、山の手入れ（間伐等）による森林整備を行う事を目的に、<川上（木を切る）>・<川中（製材）>・<川下（使う）>による新たな地産地消のプロジェクトです。



ASHIKAGA / TOCHIGI

林業の衰退とともに荒廃していく日本の人工林。人の手の入らない森はコントロールを失い、日々どんどん傷んでいく。

輸入材に頼らず、地元にある木を使うこと。それは地元の森の環境が守られるということ。

木を切るひと、製材するひと、使うひと。地域でこの3つが繋がれば、森はきっと元気を取り戻す。

「地元の木を使いたい」その声が広がれば、その土地の暮らしや産業が、より豊かなものになるかもしれない。

これは地元がもっと好きになるプロジェクト。さあ、はじめてみよう。わたしたちの街「足利」から。

「ジモトの木」でモノづくり。
地元がもっと好きになる。



川上、川中、川下へ。
地域でこの3つが繋がれば
地元の木で何かが生まれる。

Vision

日本は世界第二位の森の国。たとえばこんなふうに、将来、日本各地にこの取り組みが広がると、森林環境が守られ、国産材を使ったモノづくりの輪も広がっていくのではないかと、わたしたちはそう考えています。



はじめてみよう、足利から。



萩原林業(株) (有)マルトツ (株)昭栄家具センター